

# 使用説明書

使用前には必ず本説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。

## 馬インフルエンザ不活化ワクチン 馬インフルワクチン “化血研”

### 【製法・性状】

本剤は、動物用生物学的製剤基準「馬インフルエンザ不活化ワクチン」において定める馬インフルエンザウイルス\*（【成分・分量】の項参照）をそれぞれ発育鶏卵で培養し、感染尿膜腔液を限外ろ過、超遠心法等により精製、濃縮したのち、ホルマリンを加えて不活化し、保存剤としてチメロサルを加えたものである。本剤は微白色の液体であり、pHは6.8～7.5である。

\*動物用生物学的製剤基準において定める株は、国内外を含めた野外流行株の情報収集及び情報解析に基づき定期的な見直しがなされる。従って、本剤は、製造販売ロットにより異なる株を含有することがある。含有する株についての最新情報は、<http://www.kaketsuken.or.jp/images/stories/veterinary/pdf/di/equine001.pdf>を参照のこと。

### 【成分・分量】

ワクチン 1 mL (1頭分) 中

発育鶏卵培養馬インフルエンザウイルス (不活化)

A/equine/Ibaraki/1/07株 (H3N8) ..... 100 CCA価以上

A/equine/Yokohama/aq13/10株 (H3N8) ..... 100 CCA価以上

ホルマリン ..... 1 μL以下

チメロサル ..... 0.1mg以下

リン酸緩衝食塩液 ..... 残量

### 【効能・効果】

馬インフルエンザの予防

### 【用法・用量】

1 mLずつ約5週間の間隔で2回、皮下又は筋肉内に注射する。

## 使用上の注意

### 【一般的注意】

- (1) 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- (2) 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (3) 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。

### 【使用者に対する注意】

誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば本使用説明書を持参し、受傷について医師の診察を受けること。

### 本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生死	有無	種類
馬インフルエンザウイルス	否	死	無	-

本ワクチン株は、不活化されており感染性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは下記までお願いします。  
 一般財団法人 化学及血清療法研究所 動物薬事業部門営業部  
 〒860-8568 熊本市北区大窪一丁目6番1号  
 TEL : 096 (345) 6505  
 FAX : 096 (345) 7879

### 【馬に対する注意】

#### 1. 制限事項

- (1) 本剤の投与前には健康状態について検査し、次のいずれかに該当すると認められる場合は投与しないこと。ただし、緊急予防の必要がある時はこの限りではない。その場合、投与適否の判断を慎重に行い、対応すること。
  - ・重篤な疾病にかかっていることが明らかなもの。
  - ・以前に本剤又は他のワクチン投与により、アナフィラキシー等の異常な副反応を呈したことがあるもの。
  - ・妊娠8か月以上のもの。

- (2) 馬が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与の適否の判断を慎重に行うこと。
  - ・発熱、咳、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
  - ・疾病の治療を継続中のもの又は治癒後間がないもの。
  - ・発情中のもの、交配後間がないもの、分娩間際のもの又は分娩直後のもの。
  - ・明らかな栄養障害があるもの。
  - ・他のワクチン投与や移動後間がないもの。
- (3) 本剤の投与後、激しい運動は避けるように指導すること。
- (4) 本剤の投与後、少なくとも2日間は安静に努め、移動等は避けるように指導すること。

## 2. 副反応

- (1) 本剤投与後、まれに一過性の局所の発赤、腫脹、全身反応として発熱、元気消失、食欲不振、下痢等を認めることがあるが、通常2～3日中には消失する。
- (2) 体質によっては、ごくまれにアレルギー反応（顔面腫脹、蕁麻疹等）あるいは心悸亢進、呼吸促迫、血圧低下、体温低下、流涎、ふるえ等の過敏反応（ショック症状）が現れることがある。この場合には適切な処置をとること。この反応が発現する場合には、通常投与後30分以内に認められる。
- (3) 副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けるように指導すること。

## 3. 相互作用

- (1) 本剤には他の薬剤（ワクチン）を加えて使用しないこと。
- (2) 本剤と他のワクチンとの同時投与は避けること。なお、本剤投与前後に他のワクチンを投与する場合には、1週間以上の間隔をあけること。

## 4. 適用上の注意

- (1) 注射部位を厳守すること。
- (2) 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く。）。  
なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- (3) 注射器具（注射針）は（原則として）1頭ごとに取替えること。
- (4) 注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- (5) ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に取扱うこと。ゴム栓を取外しての使用は、雑菌混入のおそれがあるので避けること。

### 【取扱い上の注意】

- (1) 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- (2) 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- (3) 開封して一度注射針を刺したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- (4) 使用時よく振り混ぜて均一とすること。
- (5) 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
- (6) ワクチン瓶は破損するおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
- (7) 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器と使い残りのワクチン及びその容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

### 【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 直射日光又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。

### 【貯法及び有効期間】

1. 遮光して、2～10℃に保存すること。
2. 有効期間は2年間である（最終有効年月は外箱及びラベルに表示）。

### 【包装】

1 mLバイアル

製造販売



化血研

一般財団法人  
化学及血清療法研究所  
熊本市北区大塚一丁目6番1号 〒860-8568

(300689)1604-5